



平成29年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年10月5日

上場会社名 川口化学工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4361 URL http://www.kawachem.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山田吉隆
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務部長 (氏名) 荻野幹雄 (TEL) 048-222-5171
 四半期報告書提出予定日 平成29年10月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年11月期第3四半期の連結業績(平成28年12月1日～平成29年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年11月期第3四半期	5,112	10.9	194	—	188	—	135	—
28年11月期第3四半期	4,609	△6.2	△26	—	△38	—	△76	—

(注) 包括利益 29年11月期第3四半期 151百万円(—%) 28年11月期第3四半期 △90百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年11月期第3四半期	11.12	—
28年11月期第3四半期	△6.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年11月期第3四半期	6,132	1,679	27.4
28年11月期	5,723	1,527	26.7

(参考) 自己資本 29年11月期第3四半期 1,679百万円 28年11月期 1,527百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年11月期	—	0.00	—	—	—
29年11月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年11月期の連結業績予想(平成28年12月1日～平成29年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,930	7.7	240	153.2	230	168.2	170	393.8	13.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 除外 — 社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年11月期3Q	12,200,000株	28年11月期	12,200,000株
29年11月期3Q	21,048株	28年11月期	20,888株
29年11月期3Q	12,179,023株	28年11月期3Q	12,179,112株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P.3「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界の景気は、一部に改善の遅れがみられるものの米国の回復継続や、中国の景気拡大の継続により、全体では緩やかに回復しました。国内においては個人消費や設備投資は持ち直しの動きが継続し、企業収益や雇用情勢の改善もあり、緩やかな回復基調が継続しました。

当社の関連する自動車業界においても、国内の自動車生産台数は前年同期比増加で推移し、工業用品の生産においても前年同期を上回りました。また、タイヤ並びに合成ゴムの生産は前年並みで推移しました。

このような環境の中、市場の緩やかな回復に対し、既存事業の拡販、内外の新規顧客の開拓に注力した結果、日本国内向け、海外向けとも有機ゴム薬品の販売が前年同期を上回りました。また、昨年上市したゴム向け新規製品の顧客への提案活動を国内外の顧客に積極的に行いました。

樹脂薬品、中間体、その他薬品についても、新規製品を中心に積極的な販売活動を行った結果、新規開発品の受注が堅調に推移し、既存顧客も販売増加したことから、それぞれの業種において売上高が前年同期を上回りました。

原材料においては、為替が円安に転じ、原油価格が昨年比で上昇したことにより製品原価の上昇傾向が見られました。この影響を最小限とするため、内外の新規調達先の探索や評価を積極的に行うとともに、生産においては、回復傾向にあるゴム薬品の需要増や変化する市場環境と顧客要望に 대응するため、生産数量や時期並びに人員配置の効率化に対し全社を挙げて取り組み、柔軟な生産対応を行いました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は5億1,200万円（前年同期比10.9%増）、営業利益は1億9,400万円（前年同期は2,600万円の損失）、経常利益は1億8,800万円（前年同期は3,800万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億3,500万円（前年同期は7,600万円の損失）となりました。

セグメントの業績概況は次のとおりであります。

① 化学工業薬品事業

売上高は5億8,500万円（前年同期比10.5%増）、セグメント利益（営業利益）は1億7,300万円（前年同期は3,100万円の損失）となりました。

② 不動産賃貸事業

売上高は2,600万円（前年同期比341.2%増）、セグメント利益（営業利益）は2,100万円（前年同期比327.2%増）となりました。

（化学工業薬品事業の部門別の概況）

<ゴム薬品>

ゴム薬品の分野は、国内につきましては、当第3四半期においても国内自動車販売や生産が前年同期と比較し、増加傾向で推移しました。このような環境の中、ゴム製品の顧客の需要増に対応するとともに、加硫促進剤や加硫剤の主力商品の拡販活動に注力した結果、工業用製品・タイヤ向け並びに合成ゴム向け薬品につきまして、前年同期を上回る売上となりました。輸出につきましては、東南アジアの顧客において回復鈍化の傾向が見られ、当第3四半期において為替がやや円高になりましたが、この地域の需要の拡大に対し拡販努力を行った結果、前年同期を上回りました。この結果、国内・輸出合わせての有機ゴム薬品の売上は、3億1,760万円（前年同期比11.9%増）となりました。

<樹脂薬品>

樹脂薬品の分野は、国内につきましては、アクリル酸・アクリル酸エステルが生産が堅調で推移し、前年同期と比較し、増加傾向となりました。当社の主要製品においては、輸入品との競合が引き続き継続しましたが、積極的に販売活動を行った結果、主要品目で販売数量を伸ばしたことから、国内の販売数量売上は前年同期を上回りました。

輸出につきましては、中国をはじめとする既存顧客が回復傾向となったことや、為替が円安で推移したことから積極的に拡販活動を行いましたが、主要品目において市場での競争がより激しくなり、品目により販売数量・売上において増減がありました。

この結果、樹脂薬品部門合計の売上は5億8,300万円（前期同期比6.2%増）となりました。

<中間体>

中間体部門においては、界面活性剤中間体は品目により増減がありましたが、需要が全体で低調で推移し、売上が前年同期を下回りました。染顔料中間体及び農薬中間体は主要品目におきまして顧客の需要変動に合わせ積極的な生産販売を行った結果、全体として前期同期比で売上が増加しました。

医薬中間体・機能性化学品は、海外向けで顧客の生産減少と他社との競合により売上減となりました。しかし、国内においては主要品目において拡販に注力し、新規顧客を獲得したことから売上が増加し、全体では売上が前年同期を上回りました。

この結果、中間体部門合計の売上は5億73百万円（前期同期比14.8%増）となりました。

<その他>

環境用薬剤は客先の在庫調整影響と当社納入先における他社との競合により、売上が前年同期を下回りました。潤滑油向けは品目により増減がありましたが、前年同期並みの売上となりました。新規用途向けは当第3四半期に入っても新規商品の販売が堅調に推移し、既存の主要製品の売上も増加したことから、一部品目で売上減となったものの、全体では売上が前年同期を上回りました。

この結果、この部門合計の売上高は7億52百万円（前年同期比4.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産につきましては61億32百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億8百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が1億71百万円、たな卸資産が3億12百万円増加したことによります。

負債につきましては44億52百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億56百万円増加いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が88百万円、引当金が97百万円増加したことによります。

純資産につきましては16億79百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億51百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が1億35百万円増加したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年11月期の連結業績予想につきましては、平成29年7月5日に公表いたしました連結業績予想の数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	710,436	882,435
受取手形及び売掛金	2,259,898	2,049,101
商品及び製品	561,104	715,041
仕掛品	244,619	306,757
原材料及び貯蔵品	198,694	295,145
その他	51,798	40,527
貸倒引当金	△2,261	△3,483
流動資産合計	4,024,289	4,285,526
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	764,009	759,841
その他(純額)	689,202	828,734
有形固定資産合計	1,453,211	1,588,575
無形固定資産		
その他	15,974	13,606
無形固定資産合計	15,974	13,606
投資その他の資産		
その他	232,064	257,963
貸倒引当金	△1,615	△13,416
投資その他の資産合計	230,448	244,546
固定資産合計	1,699,634	1,846,728
資産合計	5,723,924	6,132,255
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	951,773	1,040,436
短期借入金	1,060,000	960,000
1年内返済予定の長期借入金	28,044	395,224
未払金	250,206	218,641
未払法人税等	7,563	41,164
未払消費税等	28,052	1,616
賞与引当金	—	82,905
役員賞与引当金	—	9,000
その他	169,177	183,111
流動負債合計	2,494,816	2,932,100
固定負債		
長期借入金	1,125,303	928,690
役員退職慰労引当金	70,798	76,478
退職給付に係る負債	332,628	351,742
その他	172,406	163,389
固定負債合計	1,701,136	1,520,300
負債合計	4,195,953	4,452,400

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	610,000	610,000
資本剰余金	58,437	58,437
利益剰余金	839,323	974,790
自己株式	△7,550	△7,575
株主資本合計	1,500,210	1,635,652
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,181	33,922
為替換算調整勘定	9,579	10,279
その他の包括利益累計額合計	27,760	44,202
純資産合計	1,527,971	1,679,855
負債純資産合計	5,723,924	6,132,255

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年12月1日 至平成28年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月1日 至平成29年8月31日)
売上高	4,609,965	5,112,355
売上原価	3,980,236	4,184,054
売上総利益	629,728	928,301
販売費及び一般管理費	656,647	734,116
営業利益又は営業損失(△)	△26,919	194,185
営業外収益		
受取利息	355	349
受取配当金	1,745	1,567
為替差益	—	1,095
貸倒引当金戻入額	61	100
その他	5,902	4,423
営業外収益合計	8,065	7,535
営業外費用		
支払利息	10,143	9,498
為替差損	8,798	—
支払補償費	—	2,556
その他	405	1,209
営業外費用合計	19,347	13,264
経常利益又は経常損失(△)	△38,201	188,455
特別損失		
固定資産除却損	437	216
減損損失	51,112	—
特別損失合計	51,549	216
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△89,751	188,239
法人税、住民税及び事業税	930	34,530
法人税等調整額	△14,020	18,242
法人税等合計	△13,090	52,773
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△76,660	135,466
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△76,660	135,466

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年12月1日 至平成28年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月1日 至平成29年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△76,660	135,466
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8,722	15,741
為替換算調整勘定	△5,523	700
その他の包括利益合計	△14,246	16,442
四半期包括利益	△90,907	151,908
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△90,907	151,908
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年12月1日 至 平成28年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,603,855	6,109	4,609,965	—	4,609,965
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,603,855	6,109	4,609,965	—	4,609,965
セグメント利益又は損失(△)	△31,849	4,929	△26,919	—	△26,919

(注) セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：千円)

	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	全社・消去	合計
減損損失	—	51,112	—	51,112

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,085,400	26,955	5,112,355	—	5,112,355
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,085,400	26,955	5,112,355	—	5,112,355
セグメント利益	173,127	21,057	194,185	—	194,185

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、従来、「有機化学工業薬品事業」の単一セグメントでありましたが、重要性が増加した「不動産賃貸事業」を前連結会計年度より報告セグメントに追加し、「化学工業薬品事業」及び「不動産賃貸事業」の2区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。